

我的留学生活 アモイ留学報告書



第 1 0 期
高江洲 麻利子

留学期間 2011年8月～2012年8月

1、留学出発前の自分を振り返って

12月頃、たまたま目にした市報の仲松さんの報告書を見て、行きたい！と直感的に思ったのが私のこの留学のスタートだったと思います。それまで留学のことを考えていなかった私にとっては、本当に直感で挑戦しようと決めました。大学で観光を学んでいるため、留学を通し、語学を身につけ、将来沖縄の観光業を担える人材になりたかったからです。また自分自身を成長させ、また精神的にも強くなりたいと思い決意しました。留学派遣者を決める、試験と面接では、作文においては自分自身の思いをうまく書けたと思いますが、面接の際、あまりの緊張で涙をこらえながらのボロボロの状態、面接官の方からも大丈夫だろうか心配させてしまうほどだったのにも関わらず、私の志望動機に賛同、理解してくれ、私にこのチャンスを下さったことを本当に心から感謝しています。みなさんからの期待と支援に応えるぞ！絶対に成長する！という気持ちで出発しました。

2、アモイでの留学生活スタート

初めて中国へ到着した時の第一印象は、とてもたくさんあります。まず日本と異なる交通状況で、道路は秩序が無く、「怖い」と感じました。道を渡る際も、仲松さんに手を引いてもらい渡る感じで、日本にいる時と違って倍の注意力が必要だと感じました。人よりも車優先の社会です。出迎えてくれた陳先生をはじめ、1日目から出会ったすべての人がとても温かく、親切で不安を吹き飛ばしてくれ、安心してスタートできました。私のそれまでの中国へのイメージはテレビなどから得たもので、大部分があまり良くないイメージだったのですが、中国人の明るさ、やさしさは本当に私に安心感を与えてくれました。やはり与えられたもの、受身のものよりも自分で体験すること、自分の目で見る、肌で感じることの大切さを初日に心で感じたことを今でも覚えています。

3、私の留学生活

<p>2011 8月</p>	<p>アモイ到着 佐久本さんと共にアモイ市の観光 食事会など</p> <p>入寮</p> <p>学生との交流</p>	<p>9月</p>	<p>授業開始</p> <p>日本語学科の友達を中心に交流</p> <p>中秋節</p>
<p>10月</p>	<p>国慶節 初めてのホームステイ</p> <p>先生のお宅で餃子パーティー</p> <p>バスケットボールチームに入る</p> <p>アモイ理工学院 30周年</p> <p>福建省の世界遺産土楼へ</p>	<p>11月</p>	<p>バスケットボールの大会</p> <p>日本語の話せない学生との交流も多くなる</p>
<p>12月</p>	<p>校内朗読大会</p> <p>期末テスト</p> <p>中国式のクリスマス</p> <p>学校の校庭で年越しイベント</p>	<p>2012 1月</p>	<p>アモイ国際マラソン参加 ハーフの部完走</p> <p>春節 山東省、安徽省（ホームステイ）上海市、江蘇省へ観光</p>

2月	後期の開始 友達を寮へ招きカレーパーティー、寿司パーティーなどを開く	3月	中国の映画や、テレビ番組などを少しずつ理解できるようになる
4月	清明節 長期休暇を利用し、香港へ観光 ホームステイ 中国語レベルテスト HSK に向けての勉強始める	5月	第二回校内朗読大会 友達とアモイにある他の大学を回る
6月	端午節 4年生の友達卒業式 友達とサターアングギー作り 年度末試験	7月	授業終了、1年課程修了 HSK 5 級試験 ホームステイ

8月	四川省観光 HSK 5 級結果発表、合格 比嘉美和さんへ引き継ぎ 台風により空港泊初体験、沖縄へ無事に帰国
----	----------------------------------------------------------------------------

3、学校生活

① 交流、コミュニケーション

留學生活の大部分を占める、学校生活、この一年間とても充実したキャンパスライフでした。私の学校生活の大きな核、中心となったのは、友達、学生や先生方との交流、コミュニケーションでした。中国に来たばかりのころの私は、話せる中国語は簡単な挨拶に自己紹介で、その自己紹介も発音が悪かったため伝わらず、ショックを受けたほどのものでした。生活をしていく上で、言葉はとても重要で、初めの頃はそれをとても痛感しました。食堂へ一人で行けば、食べたいものを注文できず、何と言えればいいのか分からないし、近くにいた学生に英語で助けを求めましたが、その子も助けてくれず、苦しまぎれに指をさして頼むという感じでした。日本人も中国人も外見は変わらないので、食堂の人にも、「何なのこの子、しゃべりもせずに」と言われているような目で見られ、もう行きたくないなと思うこともありました。今では本当にいい思い出です。そんな私をサポートしてくれ、たくさんのことを教えてくれた、友達と先生方には本当にありがたい気持ちでいっぱいです。来たばかりの頃、本当にお世話になったのが、日本語学科のみなさんです。中国語の全く話せない私にとって、彼らの存在は本当に大きかったです。日本語学科の学生のほとんどが留学経験はないにも関わらず、日本語を本当に流暢に話します。1、2年あまりで得た語学力とは信じられないくらいです。そんな彼らの姿を見て、私も早い段階から積極的な語学習得へ身を置けたと思います。彼らから教わったことは、語学を学ぶ上では、話すこと、コミュニケーションを多くとることの大切さを学びました。今では、私の中国語勉強法の1番大切な方法になっています。

② 授業と中国語勉強法

2011年度から、留学先のアモイ理工学院の留学生クラスが正式にスタートし、前任の仲松さんまでの、1対1の授業形式から、少人数クラスの制度に変わり

ました。授業が始まったばかりの頃は、日本、アメリカ、カナダ、ロシア、アイルランド、ウズベキスタン、ナイジェリアと、さまざまな国からの学生が集まり、英語を使い中国語を学ぶというスタイルで始まりました。こんなにも多くの国の方々と触れ合うのは生まれて初めてで、すごく刺激のある毎日でした。同時に英語の重要性も身にしみて感じ、英語が話せると世界って広がるんだなあと感じました。この頃の私は、中国語と同時に英語も勉強していました。みんな、初めて中国語を学ぶ人達で、基礎の基礎からはじまりました。やはり発音は初めの頃とても難しく、先生方に根気強く指導してもらいながら、何度も何度も練習しました。

学んでいく中ですごく感じたことは、言葉をその土地、本場の地で学ぶことの大切さと、身に付くスピードが速いということです。私の場合、中学校の頃から、英語がとても大好きで長い間一生懸命勉強してきました。しかし、得意科目ではあっても、口から言葉がスラスラと出てくるという状態にはなれず、悩んでいました。中国に来て、その土地で生活をしなければならないとなると、言葉が無いと何もできません。中国語の語学力の無い状態が、私の吸収力を高める大きな要素の一つだったと感じます。私が中国語を学ぶ上で、大切にしていたことが、発音の練習、訓練はずっと続けることで、現在も続けています。初めの頃の不得意な分野で、ひとつひとつの音を CD に続けて声に出すという練習法です。ある程度話せるようになった頃には、発音がきれいだと褒められることが多くなり、コツコツと続けていたおかげだと実感しました。もう一つは、学んだことを使う、多くの人と、たくさん会話をするということです。中国では、挨拶として会ったときに、「ご飯食べた？」や「どこへ行くの」とまず聞きます。面白い文化だなと思います。こういう挨拶も自分から知っている子や、友達にしていました。また意識して多くの友達と交流することをしていました。仲の良い友達と多くの時間を過ごすだけでなく、知り合ったばかりの友達ともその日に一緒にお昼を食べよう！と誘って、多くの人と会話をする機会を自分自身で設けました。親しい友達は、私の中国語にも聞きなれていて、また私が理解しやすいように分かりやすく言葉を選んで話してくれます。居心地の良い環境から、少し自分に挑戦するように出会ったばかりの友達とも多く会話し、できるだけ多くの人に自分の中国語を聞いてもらい、また私自身もそれぞれの人が話す中国語で耳を鍛えられるようにしました。時間が経っていくにつれ、自分の語学力の進歩も感じられ、会話を楽しめている自分に気づき、本当に学ぶことがおもしろかったです。語学を学ぶってこういう面白さがあるのだと実感しました。中国語が身に付いていくにつれ、授業のスピードが自分のスピードよりも遅く、何度も簡単なところを繰り返すことにもどかしさを感じ、授業に出ずに自分で勉強したほうがもっと成長できるかもなどと、悩んだ時期

もありました。しかし、友達や先生方に何度も相談しながら、自分のスピードは緩めず、どんどん吸収し、授業では復習を兼ねて学んだことを固めて行きながら後期は過ごしていました。友達や先生方のアドバイスも受け、授業へ出続けたことは、本当に良かったと思います。

後期の時間割

	月	火	水	木	金
1 - 2 限	书法欣赏 実践 書道	中级汉语 精读 リーディング、読解	中级汉语 口语 会話		中西文化 比较 文化比較
3 - 4 限		汉语写作 作文	中级汉语 精读 リーディング、読解	中级汉语 口语 会話	
5 - 6 限		中级汉语 听力 リスニング		中级汉语 听力 リスニング	

7 - 8 限		太极拳理 论与实践 太極拳			
---------	--	---------------------	--	--	--

授業形式ですごくよかったのが、会話やリーディング、リスニングの授業の際、中国人学生がパートナー、お助け役として毎時間、一緒に授業へ参加してくれることです。隣に座ってくれて、すぐに質問でき、発音を直してくれるなどすごく勉強しやすかったです。また、初めは英語を使って学んでいた中国語もだんだんと中国語だけを使う形にシフトしていき、中国語を使い中国語を学ぶ形式になりました。授業内でも、少人数体制で、発言、質問しやすく、習った表現や単語などを使ってスキットを自分たちで作って発表するなど、すぐに実践するというスタイルが楽しく学べるし、身に付きやすかったのだと思います。先生方もまた学生たちも親身になって教えてくれ、とても学びやすい環境の中で学ばせてもらいました。



③ 課外活動

学校生活の中では、課外活動も豊富で、日本の大学のようにサークルもたくさんあります。私は、留学が決まったころから、仲松さんのように、スポーツをしようと考えていたので、すぐにバスケットチームに入りました。チームには日本語の話せる子は2、3人でその他の子達とは英語でコミュニケーションを取るという状態からのスタートでした。練習期間は短く、すぐに大会という感じではありましたが、スポーツを通して、多くの子達と知り合い、有意義な時間を過ごせました。私たちの外国語学科のチームは校内で4位という成績でしたが、大好きなバスケットボールでたくさんの友達ができただけで私の財産になりました。

また授業外の活動として、先生方と生徒と一緒に休日は外へ観光に行ったり、先生の家で餃子作りをしたりと、たくさんのイベントを先生方が計画してくれました。クラスメイトとも仲が深まりますし、先生方との距離も縮まるととてもいい機会でした。また中国の文化を直に学ぶことができました。

④ 中国の大学生

私が受けた印象の中で、中国の大学生と日本の大学生とでは結構多くの違いがあり、興味深く感じました。私たち日本人の大学生のイメージというと、自由に好きなことができる、好きなことを学べる、アルバイトをして長期休暇には旅行へ行ってなどと、自由を謳歌できるイメージがあります。勉強は二の次という感じで、学業以外のことに重きをおく人、そういうイメージを持つ人が多いと思います。中国で同じくキャンパスライフを送っているうちにいろいろな発見があり、違いが見えてきました。まず、ほとんどの大学が全寮制で学外に住む学生はごく一部です。寮も共同生活で一部屋4から6人の場合が多く、アモイ理工学院では6人一部屋のタイプでした。友達の部屋を訪れた時に驚いたのが、部屋の狭さとプライベートの確保が難しい状態だったことです。二段ベッドに小さな机にと、一人ひとりのスペースは最低限に抑えられていて、ここでも中国の人口の多さを感じました。学生に話を聞くとやはり、人間関係など不自由をきたす面も多いらしく、不便を感じている学生も多かったです。しかし、ルームメイトと助け合って勉強し、共同生活をする中で他では得難い友情を得ることができるようです。寮の中はいつもにぎやかで、一人部屋だった私にとって、共同生活は少し羨ましかったです。寮というだけあり、規則も厳しく、夜の11時には完全に電気が使えなくなり、インターネットも繋がりません。自炊も禁止されており、食事は三食、食堂でという形です。また、大部分の大学生がアルバイトはしていません。アルバイトをする場合は長期休暇にす

る学生が多いです。日本ではほとんどの学生がアルバイトをしているので、真逆の状態です。みな学校内での生活がほとんどで平日はずっとキャンパス内にいることが多いです。授業が終わるとほとんどの学生が、図書館へ自学自習をしに行くか、スポーツで汗を流し、サークル活動を行います。勉強に集中できる環境であることは確かだと感じました。学生たちと交流していく中でやはり、日本の大学生とは勉強に対する意欲の高さの違いを感じました。私の友達の多くが外国語学科の学生だったのですが、彼らの語学力は本当に高く、皆のやる気にいつも刺激をもらっていました。テスト前には、図書館には席が無くなるほどで、私が自分自身の大学では見たことのない光景でした。日本の大学生の生活と比べると自由が少なく、限られた環境、状況の中で窮屈な感じを受けましたが、その中でも自分の能力を高め、必死に勉強をする学生からは、大学生の本分というものを教えられた気がします。

4、留学を終えて

あっという間だった一年間の留学生活、時間の速さがこんなにも速いのかと驚くほど、今までのどの一年よりもあっという間の一年間でした。毎日が新しい発見や出会い、一日一日自分自身の成長を感じながらの生活はとても充実していて、本当に人生の財産になる時間を過ごすことができました。言葉も中国人のこと、文化も何も知らない状態で始まった、留学も帰る頃には、よく耳にする、～は私の第二の故郷という表現がぴったりだと思えるほど、アモイへの思い入れが強くなっていました。初めの頃は、少々困難もありましたが、ひとつもつらく苦しい思い出はなく、努力することの楽しさを改めて知れた一年でもあります。目標の一つであった、自分らしく楽しみ頑張るということを、この一年を通して達成できました。また、初めて沖縄、日本をこんなにも長く離れましたが、離れて分かる良さというものを心から実感しました。やはり日本という国はすごく先進国でこの恵まれた国に生まれたこと、何不自由のないインフラ、サービス制度など、自分の中で当たり前だと感じていた点が世界では、そうではなく、その不便なく送れる生活も日本の素晴らしさの一つなのだと感じました。私の大好きな沖縄に対してもそうです。この留学の一つの目標でもある、沖縄の観光業を担える人になるため、少しでも多くの人に沖縄を知ってもらいたいと思い大勢の前で自己紹介をする機会の際には、沖縄の簡単な紹介も行いました。沖縄の写真を使って、自分のできる範囲ではあったものの、みんなからいい反応が返ってきたときの感動は大きかったです。やはり、私の夢、目標は、もっと多くの人に沖縄を知ってもらい、沖縄の観光業を盛り上げたいということなのだなどと改めて実感できました。離れて自分の国や沖縄のことを考える時

間があったことも私にとって、良さやそうでないところも含めて、普段の生活では気づくことのできない点が見えたので得たものは多かったです。

また自分自身の成長としては、語学力だけでなく、コミュニケーションの力、また私の短所の一つでもあったくよくよ考えてしまう性格の改善など、沖縄に帰ってきて自分で実感できる点がいくつかあります。高校生の頃から人との付き合いかたに悩み始めて、自分の満足のいくコミュニケーションが取れないなどの悩んでいた部分に成長を感じました。言葉の分からないころからの、交流、コミュニケーションをとることの経験が大きな手助けになっています。人に会って、人と話すことが今では本当に大好きです。自分の感情のコントロールだとか、時間の使い方、継続力、観察する力など、レベルアップできた部分は本当にたくさんありました。この留学経験を通して多くの面で成長できたことを本当に感謝しています。

このアモイ留学の機会を私に与えてくれた宜野湾市役所の皆さま、そして留學生活中も気にかけてサポートしてくれた佐久本さん、沖縄からいつも応援してくれ、励ましてくれた父、母、妹をはじめとする家族のみんな、友達みんなにも言い表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。そして私の中国での1年を、充実した素晴らしいものにできたのも、中国、アモイで出会った人々無しには本当にありえません。アモイに降り立ったその日から、飛び立つ最後の日まで、心の支えにもなりました陳先生、王先生、私といろいろな場所へ連れて行ってくれたり、文化習慣を教えてくれたり、毎日の生活を一緒に過ごした多くの大切な友達にも心からの感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうと感謝の言葉を述べるだけでは、この心の中にあるたくさんの感謝の思いは伝えられないです。沖縄に戻り始まった残りの大学生活の中でもさらに成長し、将来は沖縄と中国、日本と中国のために活躍できるような人になるために、これからも頑張っていきます。本当にありがとうございました。